

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572307601		
法人名	有限会社 キクチ縫製		
事業所名	グループホームけやき(A棟)		
所在地	秋田県南秋田郡八郎潟町夜叉袋字中羽立74-10		
自己評価作成日	平成31年2月2日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成31年2月28日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「その人らしさを大切に寄り添い支援する」を理念としています。利用者様の希望やこれまでの生活習慣を尊重し、理念に基づき職員が自分で考え、できる限り対応できるよう日々努力しています。暖かく家庭的な雰囲気も設立当初から大切にしてきたことの一つです。また、利用者様を第一に考えながら、職員の負担も軽減できるよう、その時々利用者様の状態に合わせて業務内容の変更なども行っております。

昨年度の外部評価で指摘された重度化した利用者様への対応については、「看取りはできないが、できる限りお世話させて頂く」というこれまでと変わらぬスタンスですが、経験をしたことで医師や家族への連絡のタイミング、多職種との連携など学べる事が多くあり、今後に生かしていきたいと思っております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

幼稚園や小学校との交流や認知症カフェに参加し、幅広い世代間で交流が図られている。全町内に配布される商工会の行事予定表に幼稚園の訪問が載っているため、地域住民の認識度は高い。利用者の暮らしぶりや行事、レクリエーションの様子をフェイスブックで情報発信し、啓蒙活動の一環となっている。震災の教訓を活かし、義務化されている避難訓練の他、町の防災訓練、配水停止時の訓練を実施している。運営推進会議メンバーは、商工会や教育委員、障害福祉サービス事業所、隣接町の社会福祉協議会等、十数名で意見交換され、代表の人脈の広さがうかがえた。共用型デイサービスで利用者1人を受け入れ、地域で柔軟な支援を目指していこうとする姿勢が確認できる。開設から17年、利用者も重度化していく中で、出来ることは行っていたが、出来ないことだけを支援し、一人ひとりの本来の姿を大事にしていきたいと、利用者本位のケアを目指している。

項目		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印			
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしさを大切にし寄り添い支援する」を理念として掲げ、職員で共有し、実現に向け日々努力をしながら皆様と過ごしている	理念にある「その人らしさ」とはどうか、職員へアンケートを行い、意識して取り組む内容を掲げ、掲示している。年初めの職員会議において、ホームの目標を掲げるより、今年は理念を頑張っていこうと話合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者様のADLの低下等により、以前より地域行事への参加の機会は減っているが、幼稚園、小学校、ボランティアとの交流、町で行った認知症カフェへの参加等、地域の皆様との交流を楽しむ事が出来た	民謡同好会のボランティアや幼稚園児が踊りを披露したり、小学校の軽音楽クラブが歌や楽器の演奏のためホームへ訪問している。地域住民から野菜をいただいたり、認知症カフェへ外出したりと地域の中で交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	いつでも認知症の相談に乗れるよう見学や窓口を設けている 管理者は町の介護保険運営委員等として、町の会議に出席するなど地域への貢献をしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではホーム内の現状報告を行い、たくさんの意見やアドバイスを頂いている 頂いたアドバイスを大切にサービスに活かしている	地域包括支援センター、社会福祉協議会、障害福祉サービス事業所、居宅介護支援事業所、消防署、商工会等、多方面のメンバーが参加し、十数人で開催している。利用者の状況や行事、感染症対策、身体拘束、警察署員から振り込め詐欺の注意喚起等、議題は幅広く意見交換され、活発で有意義な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居相談、空き情報等も地域と連絡を取りながら進めている	役場や地域包括支援センターから空き情報の問い合わせや、福祉事務所が定期的に来訪し、利用者の状況を報告し、協力関係が築き上げられている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないようマニュアルがあり、職員も理解してケアを行っている 身体拘束の適正化会議や、自己チェックを行うことで、身体拘束をしないケアを意識できるようになっている	ホーム独自の虐待、身体拘束チェック表を作成し、職員が年4回自己チェックをしている。3段階評価となっており、利用者にとってどうかという視点で、会議内で話し合いを行っている。また、不適切ケアを可視化することでケアの振り返りにもつながっている。今後は集計し、傾向と対策を検討していきたいと前向きな意見を管理者から伺った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止のマニュアルがあり、職員も理解してケアを行っている 身体拘束の適正化会議の時に、一緒に虐待についてもチェックを行い、何が虐待か意識することで、虐待の防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	マニュアルは準備しているが、職員全員が理解し活用できるとは言えない 実際、入居者の中に利用している方もおらず、身近ではないこともあり、理解と活用が進んでいない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行っている 解約に至る場合は嘱託医の説明と共に今後の対策も相談に乗っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にはご家族と気軽に情報提供できる時間を持つようにしている 要望は申し送りで職員に伝わるようにしている	入居生活状況を記入した広報「樺」と利用者だけ写っている写真4~5枚を家族へ毎月郵送している。家族が面会時に状態報告と共に意向の確認をしている。家族からの意見は申し送り連絡表へ記入し、職員間で情報共有し、話し合い、反映できるような仕組みが出来ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り、月1回の職員会議で話し合っている	毎日のミーティングや職員会議で、率直な意見が交わされている。トイレの手すりの設置や夜勤開始時間、ドアの開閉等職員の意見から改善された事例があった。職員からは、発言に耳を傾けてくれる、悩んでいる時には助言してくれると仕事へのモチベーションにもつながっていた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有給休暇をとれるようにし、極力時間外労働をしないように努めている 又、資格取得等の意志がある職員には研修時の勤務の調整等を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	いつでも勉強できるよう参考書等を準備している 施設外研修で学んだ内容は、施設内研修で内容を全員が把握できるようにしているが、今年度は日程が合わず、施設外での研修ができなかった		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	男鹿潟上南秋グループホーム連絡会で行う研修会に参加し交流を行っている		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを利用して頂く前に事前面談を行い要望を確認している また見学等で施設内の様子を見ることが可能		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族もいつでも見学や相談に乗れる体制になっている		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人を尊重し共に支え合う暮らしを大切にしている ホームの理念でもある		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や月次報告書等で日々の状況を伝え、ご家族と一緒に支援していけるように努めている		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なるべくご本人の馴染みの関係がとぎれないよう、ご友人や親せきの方などとの面会も、出来る限り支援している	入居時に家族以外の面会は可能か意向を確認している。仲の良い友人と町のイベントに参加したり、孫がいる美容室に息子さんが送迎したり、お墓参りに出かけたりとなじみの人や場との継続的な交流が出来るように支援している。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支えあえるような支援に努めている	ご本人の状態によっては難しいこともあるが、利用者同士が出来る限り関わり合い、支えあえるような関係を築けるよう、支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院継続の場合、他施設へ移動した場合はサービスが終了していても、できる限り面会に出かけるように努めている 退所時は今後の相談に応じている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話、ご家族、ご友人からなるべく情報を集め支援に活かせるよう努めている	家族から情報を得たり、日常の会話の中から食べたい物や好きなこと等を把握している。表情がいつもと違うと感じた時は声かけをし、確認している。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族等から情報収集している ご友人の面会時にも情報を頂くようにしている また今まで関わっていたサービス事業者の方からも細かな情報を頂くようにしている		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月1回の職員会議、毎日のミーティング等ご本人の状態に合わせ、柔軟に対応するようにしている		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時などにご家族に現在の状態を伝え、要望などを確認し、職員会議やミーティングでの職員の意見、訪問診療時などの医師の意見等を参考に本人の状態にあった計画作成が出来るように努めている	利用者及び家族の意向を確認し、担当者の意見をもとに、管理者と主任で原案を作成し、会議やミーティングで話し合いをしている。職員の意見を計画書に反映し、全職員が回覧で確認をしている。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	基本的にケアプランに沿った記録ができるような日誌になっているが、状態の変化や細かな気付き等を記録して情報を共有し、計画の見直しに活かせるように努めている		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の希望を取り入れ出かける事ができるよう支援している(美容院、買い物、外食等)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に嘱託医と連携し希望に沿うよう確認をとっているので引き続きかかりつけ医にかかる事が可能	希望する医療機関に受診することが出来るよう支援している。嘱託医の訪問診療や訪問歯科、状態に応じて訪問看護等適切な医療を受けられる体制にある。受診内容は申し送り、連絡表と個別の医療ケースファイルに記入され、職員間で情報共有している。薬局は錠剤の粉碎の相談や重複している内服について病院へ進言したり、調剤薬の配達等協力的である。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師はいないがいつでも嘱託医、協力病院との連携が取れるようにしている		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必ず今後の治療方針を確認している嘱託医のほうから事前に医療情報が提供されている入院日にはサマリーでも情報を提供している		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にも説明するが状況に応じての対応方針をご家族と話し合う 嘱託医との相談、説明も合わせて行っている	入居時に重度化した場合の対応について説明している。状態に応じて、嘱託医、家族、事業所で話し合い、方向性の確認をしている。看取りはしていないが、末期状態の方には、事業所で出来る最善のケアを行い、病院へ搬送した事例は職員の自信につながったと管理者から伺った。	看取りに関するマニュアル化については、グループホームの実情にそぐわず実施していない状況にあるが、利用者及び家族の終末期の意向はどうなっているのか、事業者が対応出来ること、出来ないことを、早期の段階から家族と合意形成できるよう取り組みに期待します。
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはあるが、職員全員が不安なく対応できるかは課題 今後研修が必要と考えている		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルがあり避難訓練等でその都度確認しているが、職員全員が不安なく対応できるかは課題	年2回の避難訓練の他、春と秋に町の防災訓練を実施している。土地柄から、停電時に水道が止まるため、2日間9時から16時まで配水停止を想定し、土鍋でご飯を炊いたり、備蓄の非常食を調理する等震災の経験を活かし、訓練を継続している。また台風の接近時は湯船に水をためて備えている。水、レトルト食品、カップラーメン、缶詰等備蓄とし、渡り廊下に準備されていたのを確認した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々を尊重し暖かな対応ができるよう心掛けている	軽視することなく、プライドを損ねないよう利用者のことを考えて、声かけに留意している。帰宅願望の思いに寄り添い、話をよく聞くように心がけている。居室に入室する際、事前に利用者へ承諾を得る場面を確認した。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく自己決定できるようにしている 難しい場合は選択できるようにしている		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	すべてを優先する事は難しいがなるべくゆったりと個々のペースに沿うよう支援している		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の選択に任せているが場にそぐわない時や気温にそぐわない時はさりげなく支援している お誕生日や外出等そのシーンに応じて配慮している		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に応じて無理なくできる範囲でお手伝いをして頂いている 食事やおやつ等作り方を職員が教わりながら一緒に行う事もある	食事係がメニューのバランスを考え、マンネリ化にならないよう工夫している。野菜を切る、盛り付け、下膳する、お盆を拭く等、出来ることを分担して利用者個々の力が発揮できている。家族から差し入れられた柿は、皮むき、紐結びと役割分担し、干し柿作りを例年行っている。軒先の干し柿をながめ、食べ頃を楽しみにしているとのことであった。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を記録している 食べられない物は代替、不足の場合はおやつ等で補食している 個々に合わせた食事形態にしている		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアもしくはうがいの声かけをしている 義歯は洗浄剤を使用している 自歯の方が増え、拒否されない方については、仕上げ磨きや、歯科医の定期健診で口腔内の健康が保てるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄能力、パターンに応じた支援をしている ケア用品も時間帯や排泄量に合わせて対応するようにしている 状況に応じ、おむつをしてもトイレでの排泄を支援している	日誌に排尿の有無、時間を記入し、失禁しないように声かけをし、トイレ誘導を行っている。病院からおむつで退院した方が、リハビリパンツへ移行できた事例があり、できるだけトイレで排泄できるよう支援している。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品、食物繊維の摂取、運動、マッサージ等の対応をしている 個々に応じて実施している		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴はこちらに合わせてもらっていることが多いが、時間帯や入浴方法等なるべく希望を取り入れたり、場合によりシャワー浴を行ったりしている	午後に入浴にしているが、意向に沿って対応をしている。暑い日には回数を増やしたり、シャワーで汗を流したり、足浴等支援している。入浴時の着替えは肌が露出するためタオルをかけ、羞恥心に配慮している。体調不良時は入浴を翌日に変更したり、清拭やドライシャンプーで対応している。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度、湿度、明るさ、音等に配慮しながら巡視している 寝具の確認や眠れないときはおやつやホットミルクの提供もしている		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から頂いた個人個人の薬の説明書をファイルにし、いつでも確認できるようになっている また嘱託医やかかりつけ薬局とも連絡を取り、理解と確認に努めている		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	なるべくみなさんと楽しく過ごせるよう、レクや行事、外出等を計画し参加を促している 趣味に関しても楽しめるよう支援している		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なるべく希望に沿うようにしている また可能であれば、ご家族やご友人にもご協力頂き外出できるように支援している	天気の良い日は頻繁に散歩に出かけ、気分転換を図っている。年2回は小旅行を企画し、水族館や博物館へ外出支援した。水族館は利用者の要望である。花見や紅葉の見物に出かけたり、天気の悪い日は、はちパルでお茶を飲んだりと日常的な外出の機会がある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にホーム内ではお金を持たないようにしているが、希望によりご家族と話し合い所持している方もいる 外出時など希望される方はお金を所持し、買い物ができるよう支援している		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の要望に沿って支援している		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、湿度、光、音等の管理をしている 行事や手工芸には季節感あるものを取り入れている 季節の花を飾ったり、季節の話題で会話を楽しむなど季節を感じる事が出来るように努めている	利用者と共に作成した季節感のある貼り絵や楽しかった思い出の写真が飾られている。快適に過ごせるように温度管理し、インフルエンザ予防策で湿度を保てるよう加湿器を増やして対応している。ホールから続きの畳の部屋は利用者が洗濯物を畳んだり、入居まもない利用者が落ち着く場所として使用されている。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2棟をお互い自由に往復できるので気の合った方とお茶を飲んだり談話したりしている 限られたスペースではあるが、ソファを置いたりすることで思い思いに気に入った場所でくつろぐ様子が見られている		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険の無い範囲でなるべく馴染みのものを持ってきて下さるようお願いしている 以前ご自分が作成した手芸品を持ってきたり作品を飾っている方もいる	ベッドは備え付けだが、TV、テーブル、遺影、人形等なじみのあるものを持参している。畳の居室は、使い慣れたものと調和がとれ、落ち着いた懐かしい雰囲気を出している。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレに飾りを付けるなど、わかりやすくする工夫をしたり、一人一人の状態に合わせて、声掛けや見守りを行っている		